

第2回食品ロス削減ネットワーク懇話会 議事要旨

1 開催日時 平成30年12月12日(水)午後3時～5時

2 開催場所 旧議会会館1階共用会議室

3 出席者

神戸大学大学院経済学研究科教授 石川 雅紀

株式会社ダイエー管理本部総務・お客さまサービス部リーダー 中山 大輔

株式会社グルメ杵屋 総務部門長 加藤 誠久

公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会西日本支部長 樋口 容子

大阪府流通対策室 課長 山本 誠一

4 議事

(1) 家庭の食品ロス実態調査結果(速報)について

(2) 食品ロス削減シンポジウムについて

(3) 事業者の取組みを後押しする制度について

(4) 来年度の取組みについて

(5) 平成30年10月食品ロス削減キャンペーンの取組み結果・拡大について

5 内容

(1) 家庭の食品ロス実態調査結果(速報)について

《資料1により事務局から説明》

○主な意見

- ・300人に対して、捨てた人122人、この人数では少ないと感じる。
- ・ストックを見たときに捨てているので、年間どれだけ廃棄になるかまでは、このデータでは言えない。調味料は、家庭内でストックしている期間が長い。気が付いて、すでに持っていたが期限が切れているというそういうもの。野菜は、いつも使うつもりで買って、使い切れなくなり、悪くなったから捨てるというもの。
- ・調味料は深く入り込んで調査をしているが、生鮮野菜や果物を捨てる方が、問題が大きいのでは。各種類の上位3位までが知りたい。
- ・対策はわかりやすい。ゆずこしょう1瓶をどうやったら使いきれるか。

(2) 食品ロス削減シンポジウムについて

《資料2により事務局から説明》

○主な意見

- ・一回一回テーマを考えたほうがいい。フェスティバル風にやるといい。
- ・大阪府内の市と連携して仕掛けたらどうか。
- ・学校にも発表してもらおうとか。うまくいけば年中行事になる。家庭の実態調査に学校が参加してくれたのはいいきっかけになるのでは。
- ・大阪万博が決まった。万博とのタイアップはまだまだ先の話だが、せっかくの機会なので、有効活用できたらいい。

(3) 事業者の取組みを後押しする制度について

《資料3により事務局から説明》

○主な意見

- ・大阪府と一緒に食ロス削減に取り組むという方向性で、大阪府は取組みをしてくれる事業者とパートナーシップを結んでPRをしていきたい。
- ・こういった話は前向きに調整できる。
- ・定量目標が入らない方がやりやすい。定性的なものであれば、比較的時間はかからないと思う。
- ・メディアに対する広報戦略をずっと考えるというのも一つだし、一回目は広報戦略でやり、二回目以降は、全く別なメディア、手段を用いるなど。大阪府のメディアはどのようなものが考えられるのか。府政だよりやそれ以外でも官庁が関わっているものもある。
- ・大阪府とタッグ組んだら、こんなメリットがある。だから一緒に取組みたいと思えたら進めやすい。
- ・何か、お笑いとはまではいなくても、キャッチーな感じを発信できると良い。
- ・いろんな企業が一緒になってやれば、かなりインパクトが強くなり、マスコミが来てくれて可能性が高まる。
- ・あとは、パートナーシップ結んでいないことでの疎外感をあたえるかどちらか。

(4) 来年度の取組みについて

《資料4-1、4-2により事務局から説明》

○主な意見

- ・ナッジの取組みを進めていくのは、いいアイデアを出す仕組みを考えた方がいい。ナッジは、気が付かない何かという要素があるので、普通に考えているだけではなく、変化球が必要。
- ・ある企業の本社にいったときに、カフェテリアは無料でいくらでも食べられるけど、ドーナッツなどカロリーが高いものは、高く取りにくいところにある。一番取りやすいところにはドライフルーツとかナッツとか、きゅうりを切ったものとか。肥満率がだいぶ下がったという話を聞いた。
- ・そういう意味で言うと、小売業では比較的よく売れる商品は下にある。取りやすい、見やすい。大体お客様は下を向いている。
- ・消費者は自分が最後まで食べるのも、がつがつするのも恥ずかしい。自分ひとり持って帰れないが、意外と消費者は最後まで食べたいし、持って帰りたいたいという思いがある。
- ・持ち帰りについては、ハードルが高い。
- ・食べきりと、食べられなかったら持って帰るといった容器もセットにすると、消費者も行動しやすい、アプローチしやすい。
- ・消費者が本当に気にしているところを追及する。ダイエットかもしれないし、お得なことかもしれない。
- ・消費者の心理は、押し付けられるのは嫌だし、見られるのも嫌。
- ・ナッジの発想は、誰からどう出てくるかわからない。よく準備していれば、府立高校の生徒さんたちに協力してもらおうなどでいいアイデアが出る可能性はある。

(5) 平成30年10月食品ロス削減キャンペーンの取組み結果・拡大について

《資料5-1、5-2により事務局から説明》

○各社から補足説明

○主な意見

- ・子どもは小さすぎると大人のご飯を取り分けて食べさせるので、お子様メニューを頼む動機付けになっていいと思う。
- ・こういうイベントはゆるキャラの効果が大きい。子どもだけでなく、親も来てくれる。
- ・こういう取組みをスタンダードにしたい。定例的にお客様、府民の皆様に知っていただく機会にすることは意味がある。大阪府の力で広げていただけたらなと思っている。
- ・具体的な取組みを事業者でそれぞれやっていただいている、事業者が単独でやるのではなく、特に関係ない企業がいくつも一緒に取組むようになると、大阪府の役割がつなぎ役になりわかりやすい。
- ・社会にダイレクトに貢献しているような内容がわかりやすく、お金をかけて業者に頼むのではなく、生活に根付いた主婦がレシピを作っていますよというのも良い。
- ・やっている人が元気が出るような、中長期的な仕組みにする。

○まとめ（座長：石川教授）

- ・今日もたくさん意見をいただき、膨大なインプットがあったかなと思う。宿題も大変だが、頑張って処理していただきたい。うまくいく方向のご意見が多かったと思うので、何とか整理さえつければ、前に進めると思う。